

笛倉温泉から 燃山 北面往復

86.5.3~4

メンバー L西川克之、白沢光代 2名

5月3日 くもり

笛倉温泉から歩20分で火打山川の橋。ここから燃山北面台地がテーブルのように立ち上がり、いる。シールをつけて登り始める。つづら折りの林道の急傾斜の残雪を、スキーアイゼンにものさしわせて神経をすりへらすトラバースをくりかえし、疲れてようやく台地の上部に出る。おわんを伏せたような形の黒い燃山が見える。

起伏をさけて燃山川をいにコースをとり、アマナその手前で中央部により登っていくと、燃山まで延々と続く大スロープの末端に出た。さえぎるものなく正面に燃山を臨むことができる。このスロープの中央部(1270m)に今日はリュートをはる。

5月4日 くもりのち快晴

高曇りの中、燃山めざして出発する。やがて斜面は右に曲がり、傾斜も増していく。燃山北面上部は急峻で雪のない所が多い。泊岩方向へトラバースして進み、雪がなく木が驚いた沢の隙を板をがついで越え、またもや神経をすりへらすトラバースを続ける。2100mでまた林にぶつかったので、スキーをデポし直登する。

かん木の中をネコガリタケにつかまり、雪のつまつた小さなルンゼをすぎ、こうなれば道も何もない、ガレバしたがただ上へとたどると稜線に出た。右の尾根を越え、雪渓を横断して再び稜線上に立つと、頂上とそこから続く火口壁の尾根がすぐ先に見えた。しかし尾根は険しい岩場でとりつけようになり。側壁は雪がついているがそこまでトラバースできそうにはない。一瞬敗退かと思ったが、とりあえず直下へ行ってみるとそこはお釜の北側の雪の土手だった。燃山頂上の地形がやっとわかった。険しい火口壁はお釜の南側半分がりご、北側は10mほど高い雪の土手になつている。いったんお釜の底に下り、雪壁を登つてついに頂上に着いた。後立山連峰がすんで見える。金山はまだ真白がが、妙高・火打の稜線は雪がない。しかし火打からスキーをがついて縦走しきた3パティーが通りすぎた。

お釜から、2260m 岩峰の左の雪渓を下り、左にトラバース気味に行ってデボ地に着いた。トラバースして再び沢のヤブを通りぬくと、北面台地の滑降に移る。一番楽しい所なのだが、やや重い雪でスキーが操作しづらい。このころから雲一つない好天になった。リエルトに戻り、ゆっくりお茶を飲んで午後の一時をすごす。

再びスキーをつけ、荷物をしょって下山開始。大スロープが終ると台地の末端まではあまりすべらない。林道に出てどんどん高度を下り、火打山川の橋に出て滑降は終了。笛倉温泉から糸魚川に出て、大糸線の夜行で5日の朝新宿着。（西川記）

コース・タイム

5月3日 笛倉温泉 9:35 → 橋 9:55 / 10:10 → 810m 11:10 / 11:30

→ 1270m 14:50

5月4日 1270m 5:55 → 2100m 9:00 → 燐山 10:35 / 10:55

→ 2100m 11:40 / 12:00 → 1270m 13:00 / 14:05

→ 810m 14:45 / 15:00 → 橋 15:20 → 笛倉温泉 15:35

焼山北面台地の滑降



